



運動推進 NEWS

まちづくり60年 そして未来へ

令和3年8～11月号 第210号

(令和3年11月30日)

公益社団法人 東京のあすを創る協会

中央区八重洲2-11-7 東栄八重洲ビル6階

Tel 03-3272-0213 Fax 03-3272-1257

Eメール tou-asu@netjoy.ne.jp

◆開催報告 東京のまちづくり運動の輪を広げる集い 10月21日(木) 東村山市・サンパルネ



当日は、西村都生会連会長及び藤本東創協事務局局長からのあいさつの後、講演会に移りました。講演者は、熟年いきいき会の会員でもある、文芸学院大学名誉教授の清水春樹さんです。「江戸文化・歴史上の秘話」をテーマに、約1時間半講演を行いました。46名参加。

講演内容は、江戸時代の史実とは異なる事例を取り上げ清水講師が考察したもので、その中から、いくつかをご紹介します。

▶**宮本武蔵**は、巖流島での決闘時刻に遅れて来なかったこと、決闘時の年齢は、武蔵60歳近く、小次郎19歳(29歳説もあり)で、大きく年の差があったこと、勝負に敗れ気絶していた小次郎を打ち殺したのは武蔵本人ではなく、その弟子達であった。

▶**江戸町奉行**は、町奉行以下総勢僅か125人、南



北合わせでも250人程で、100万都市江戸を管理できたのは岡っ引き(与力・同心がポケットマネーで雇う非正規の捜査員で、裏の世界に通じた元罪人が多かった。)のおかげであったこと、町奉行は多忙な役職であり、自ら捜査に当たることはなかったこと、お白洲では判決を読み上げるだけで、容疑者を直接問いただすことはなかったこと、ましてや片腕を出して「この桜吹雪が・・・」なんてことは論外であった。また、名奉行と言われ、「大岡裁き」で有名な大岡越前守忠相は、記録に残っている裁きは1件だけであったこと、有名な話のほとんどが創作であった。

▶**明暦の大火**(1657年。別名振袖火事)は、火元は本妙寺ではなく、隣の老中・阿部忠秋の屋敷だったこと、このため、火元とされながら幕府からのお咎めが一切なかったこと、大火以降、関東大震災までの260年間、阿部家から本妙寺に供養料が奉納されていた。

▶**江戸時代の食文化**は、時代劇などでは、居酒屋でテーブルを囲んで樽に腰かけているが、当時は、銘々膳か畳に直に盃を置いていたこと、酒は保存のため、目一杯発酵させて酸度も高かったため、水で割って飲むのが普通であったこと、江戸時代は獣の肉を一切食べなかったというのは嘘で、江戸市中には「百獣屋(ももんじゃ)」という料理屋があり、レンピ本には、犬、狸のほか、カワウソの調理法まで出ていた。

▶**西郷隆盛**は、本名は西郷隆永(たかなが)であったが、明治に入って、部下が役所に名前を届け出た際、誤って父親の名前の隆盛としてしまったこと、西郷は武力による征韓を主張し、論争に敗れて下野したとされるが、あくまでも平和的な解決策を主張していたこと、「情の西郷隆盛」、「意の大久保利通」、「知の木戸孝允」は、維新の三傑と呼ばれたが、明治維新の主役は、大久保と木戸で、西郷は脇役であった。

以上のような、いずれも目から鱗が落ちるようなお話に、参加者の皆さんも感心しきりで聞き入っていました。ちなみに、東京のあすを創る協会の事務所



がある中央区八重洲二丁目は、南町奉行所があったJR有楽町駅前と北町奉行所があった呉服橋御門通りとのちょうど中間地点ぐらいでしょうか。現在、東京駅八重洲口前には240mにも達する小学校も合築した高層ビルが建築中です。江戸のたたずまいはもはや想像するしかありませんが、その礎の下に今の、そして未来の東京も築かれていくと思うと感慨深いものがあります。

建設中の八重洲ミッドタウン(11月25日撮影)



電車の中の乗客、90%ぐらいはスマホを手に入っているのではないのでしょうか。これはもう、日常の風景です。たまに新聞を忙しなく畳んでは広げての以前にはごく当たり前の所作も、今では珍しく奇異に見えるほど。新聞や雑誌、マンガを読むのも、昔のように文庫本を熱心に読む姿も稀で、今やゲームもショッピングも音楽もマンガを見るのも新聞を読むのも、そして読書さえもスマホ一つで事足りてしまう。デジタル化、ネットワーク化が劇的に進んで、こんな便利な世の中になったのですが、果たしてどこまで進化するのでしょうか。

反面、人と人の関係性はその分希薄になっていく現実があります。買い物も店頭でお金のやり取りをするというの、稀になってきています。いわゆる対人コミュニケーションが必要ない世界になっていくのかもしれない。そんな世界は何をもたらすのでしょうか。過日、中学校で生徒同士の殺人事件が報じられました。いじめが絡んでいたようですが、凶器に使われたナイフは対面販売によらないネットで購入されたものと報じられています。また、最近のいじめ事件で多く見られるSNSを舞台にしたものだとすれば、まさしくこれからの社会を暗示する痛ましい事件と言えるかもしれません。

そんな変転する世の中ですが、生の舞台鑑賞やキャンプやお祭りなどの行事を企画実施し、子どもたちのさまざまな生の体験の場を創り出し、子どもの環境を整える活動をしている団体があります。1966年福岡に始まり、現在、47都道府県の600を超える地域に広がっている「子ども劇場」の活動です。東京都内にも、23団体あまりがそれぞれ特色ある活動を展開しています。



八王子子ども劇場<ジョイ★パーク in 八王子市子どもキャンプ場> 子どもたちは、手作り遊具、木工遊びに夢中でした

「うちのにはムリかなあ〜」
「しつとしてもらえないから〜」
そんなふうに思ったことない？

**「はじめてのおしほい
〜心豊かに育つには〜」**

子育て、入籍、進学、入居、アットホームなご近所づな子育て世代の共通の課題の全書です。
心の中を言葉で表現してわかるように書かれた子育て世代の共通の課題を全書で解説しています。
講演会を開催して、「はじめてのおしほい」を家で見よう。

**永野むつみ子育て講演会
「感動すること、育つこと」**

対象：子育て世代の親御さん

9月30日(木) 10時〜12時 (受付開始45分〜) 西砂学習館	10月2日(土) 10時〜12時 (受付開始45分〜) 幸学習館	11月4日(木) 10時〜12時 (受付開始45分〜) 境ノ上会館
--	---	--

※お申し込み後、個別相談も実施いたします。
※お申し込みは無料です。
※お申し込みは無料です。

**子ども大好きな人が一緒に観るはじめてのおしほい
『かえるくん・かえるくん』公演**

10月16日(土) 11時開演 11時15分開演 砂川学習館	11月28日(日) 11時開演 11時15分開演 栗駒会館
---	--

主催：NPO法人 立川子ども劇場

今回、多くの子ども劇場の中の、立川子ども劇場の「子育て講演会」(11月4日)、八王子子ども劇場の「ジョイ★パーク」(11月13日)、を見学させていただきました。

立川子ども劇場の「子育て講演会」は、人形劇団「ひぼぼたあむ」を主宰する永野むつみさんが「感動すること、育つこと」という題でのお話でした。この講演会は、「かえるくん・かえるくん」という人形劇2公演と前後して、立川市内3か所で開催されたものですが、長年にわたる人形劇製作・公演で培われた子ども目線でのお話は、悩み多き子育てへの最良のヒントとなり、明日の育児への意欲を湧き起こすものになると感じました。なお、小さなお子さん連れの参加者には講演中の保育付でした。

八王子子ども劇場の「ジョイ★パーク」は、コロナ禍で開催が延期されていたものですが、広々とした空間での手作りの遊び、騒いでも、走り回っても、大きな音を立てても怒られることのない、伸び伸びとした外遊びイベントです。ジョイ☆パークとは、ジョイッコプレーパークの略称で、子どもの“やりたい”がかなう遊び場「自分の責任で自由に遊ぶ」「ケガと弁当は自分持ち」が合言葉！で、自然の下で五感をフル活用して遊び、様々な挑戦をして生きる力を育みます、とパンフレットで謳われていますが、まさにその通り。「子どもは遊んで育つ」を改めて思い起こさせてもらいました。

▽ひとこと

新型コロナ感染はオリンピック、パラリンピック期間中に急増して、現在はワクチンのおかげか季節要因なのか急減してくれました。ただ、世界的にはまだまだ感染者が増加している国も少なくなく、3度目のワクチン接種が急がれているようですから、油断禁物です。私たちの生活も疑心暗鬼ながらですが、少しずつコロナ前の生活に戻ってきています。それにしても、自然の脅威というもの、いかに人智が及ばないものなのか、と改めて思い知らされました。阪神淡路大震災、東日本大震災、新型コロナ感染症パンデミック、と後世の歴史書に大書されるような自然の猛威にさらされてきましたが、これら天災に対しては備えることはできても、回避することは困難です。一方、地球温暖化による気候変動は、天災ではありません。しかし、その影響は天災級といっても良いのかもしれない。そしてそれは、備えるのではなく回避しなくてはならないものです。そのためには、世界レベルでの対策がそれも待ったなし。しかし、周りを見渡してもその危機感はまだまだ希薄です。本当に大丈夫なんでしょうか、私たち世代ではなく子、孫の生きる時代は…。広場で伸び伸びと遊ぶ子どもたちの未来を考えることが、出発点です。頑張りましょう。(竜)